

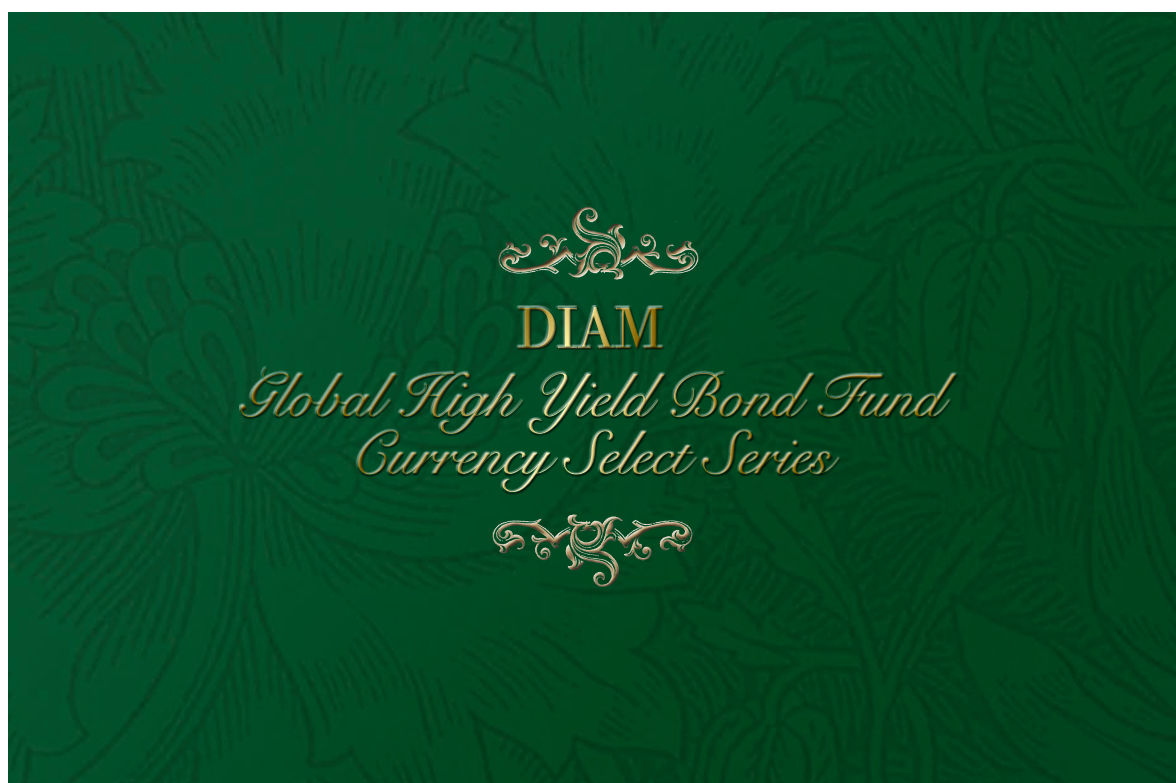
DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・ 通貨選択シリーズ

資源国通貨バスケットコース

ブラジルリアルコース

円コース

追加型投信／海外／債券



DIAMアセットマネジメント

本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。

<委託会社>[ファンドの運用の指図を行う者]

DIAMアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者登録番号／関東財務局長(金商)第324号

<受託会社>[ファンドの財産の保管および管理を行う者]

みずほ信託銀行株式会社

ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は下記委託会社への照会先までお問い合わせください。投資信託説明書(請求目論見書)は、委託会社のホームページで閲覧できる他、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。

また、本書には約款の主な内容が含まれておりますが、約款の全文は投資信託説明書(請求目論見書)に添付されております。

委託会社への照会先

【コールセンター】 0120-506-860 (受付時間:営業日の午前9時から午後5時まで)

【ホームページ】 <http://www.diam.co.jp/>

- ◆各通貨コースの略称としてそれぞれ以下のとおり記載する場合があります。
DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ資源国通貨バスケットコース：
資源国通貨バスケットコース
DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズブラジルリアルコース：
ブラジルリアルコース
DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ円コース：
円コース
- ◆上記各通貨コースを総称して「DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ」または「ファンド」という場合があります。また、各通貨コースを「各ファンド」という場合があります。
- ◆投資する外国投資信託は、「DIAM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション」または、「グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション」という場合があります。

ファンド名	商品分類		
	単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
資源国通貨バスケットコース ブラジルリアルコース 円コース	追加型	海外	債券

ファンド名	属性区分				
	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
資源国通貨バスケットコース ブラジルリアルコース	その他資産 (投資信託証券 (債券 社債))	年12回 (毎月)	グローバル (日本を含む)	ファンド・オブ・ ファンズ	なし
円コース	その他資産 (投資信託証券 (債券 社債))	年12回 (毎月)	グローバル (日本を含む)	ファンド・オブ・ ファンズ	あり (フルヘッジ)

※上記の分類は、社団法人投資信託協会の商品分類に関する指針に基づき記載しております。
商品分類および属性区分の定義については、投資信託協会ホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)にてご確認ください。

<委託会社の情報>

委託会社名	DIAMアセットマネジメント株式会社
設立年月日	1985年7月1日
資本金	20億円
運用する投資信託財産の 合計純資産総額	3兆9,837億円

(2011年11月30日現在)

- 「DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ」の募集については、委託会社は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第5条の規定により、有価証券届出書を2011年7月8日に関東財務局長に提出しており、2011年7月24日にその効力が発生しております。
- 当ファンドは、商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号)に基づき事前に受益者の意向を確認いたします。
- 当ファンドの信託財産は、受託会社により保管されますが、信託法に基づき受託会社の固有財産等との分別管理等がされています。
- 販売会社に請求目論見書をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。
- ファンドの販売会社、ファンドの基準価額等については、前記の委託会社への照会先までお問い合わせください。
- ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

1.ファンドの目的・特色

ファンドの目的

この投資信託は、高水準のインカムゲインの確保と、信託財産の成長をめざして運用を行います。

ファンドの特色

「DIAMグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ」は、以下3つの通貨コースで構成される投資信託です。

資源国通貨バスケットコース、ブラジルリアルコース、円コース

1 主として世界のハイイールド債券*1に実質的に投資を行い、高水準のインカムゲインの確保と、信託財産の成長をめざして運用を行います。

- 各通貨コースは、外国投資信託であるグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクションへの投資を通じて、世界のハイイールド債券に投資します。
- ハイイールド債券の運用は、ファンダメンタル分析に基づくボトムアップ・アプローチを用いて、ジヤナス・キャピタル・マネジメント・エルエルシーが行います。

※米ドル建以外の通貨建資産に投資を行った場合には、原則として対米ドルでの為替ヘッジを行います。

*1 当ファンドにおいてハイイールド債券とは、S&P、ムーディーズ、フィッチのいずれかの格付会社によって、BB格相当以下に格付されている債券をさします。

2 お客さまのご投資ニーズに合わせて3つの通貨コースから選択することができます。

- 資源国通貨バスケット*2コース、ブラジルリアルコース、円コースからお選びいただけます。
- 各通貨コースでは原則として、米ドル売りヘッジ対象通貨買いの為替ヘッジを行います。この結果、各通貨コース(円コースを除きます)の基準価額は、ヘッジ対象通貨の対円為替変動の影響を受けます。
- 各通貨コース間でスイッチングが可能です。

*2 当ファンドにおいて資源国通貨バスケットとは、豪ドル、ブラジルリアル、南アフリカランドの各通貨に原則として3分の1程度ずつ配分したものをいいます。

3 毎月決算を行い、原則として利子配当等収益等を中心に安定分配をめざします。

- 毎月19日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。
- 「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配をめざす」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。
- 将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
- 分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

※各通貨コースは、「グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション」の他に、「DIAMマネーマザーファンド」にも投資します。

※外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちますが、各外国投資信託の流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案の上決定します。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

1.ファンドの目的・特色

投資信託の収益分配金に関するご説明

投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

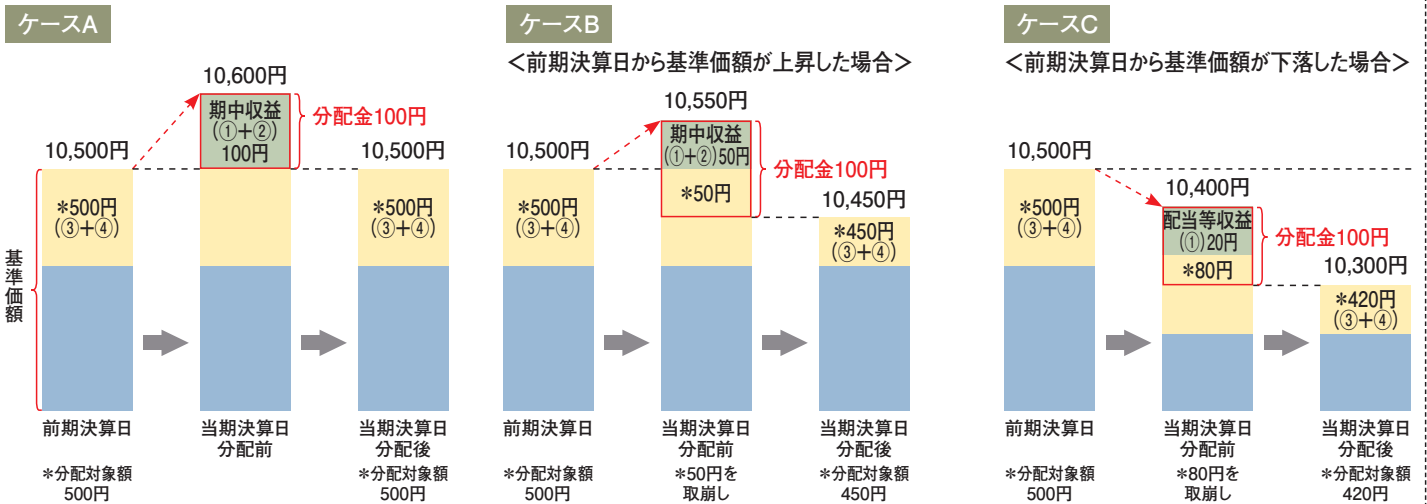
分配金額と基準価額の関係(イメージ)

分配金は、分配方針に基づき、以下の分配対象額から支払われます。

- ①配当等収益(経費控除後)、②有価証券売買益・評価益(経費控除後)、③分配準備積立金、④収益調整金

計算期間中に発生した収益の中から支払われる場合

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



上図のそれぞれのケースにおいて、前期決算日から当期決算日まで保有した場合の損益を見ると、次の通りとなります。

ケースA: 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差	0円	=	100円
ケースB: 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差	▲50円	=	50円
ケースC: 分配金受取額100円+当期決算日と前期決算日との基準価額の差	▲200円	=	▲100円

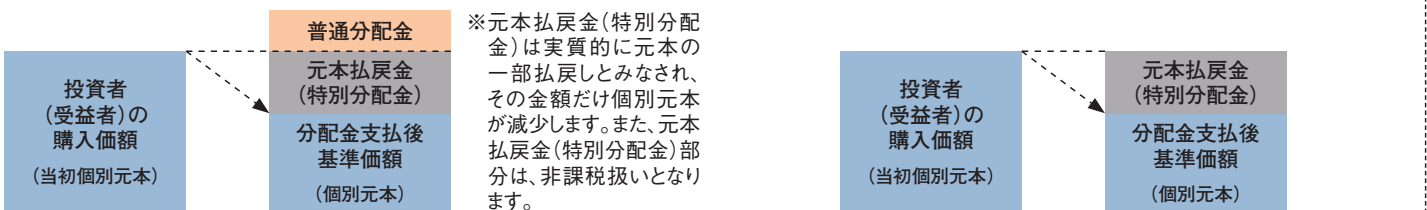
★A、B、Cのケースにおいては、分配金受取額はすべて同額ですが、基準価額の増減により、投資信託の損益状況はそれぞれ異なった結果となっています。このように、投資信託の収益については、分配金だけに注目するのではなく、「分配金の受取額」と「投資信託の基準価額の増減額」の合計額でご判断ください。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではないのでご注意ください。

投資者(受益者)のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないし全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 : 個別元本(投資者(受益者)のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者(受益者)の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

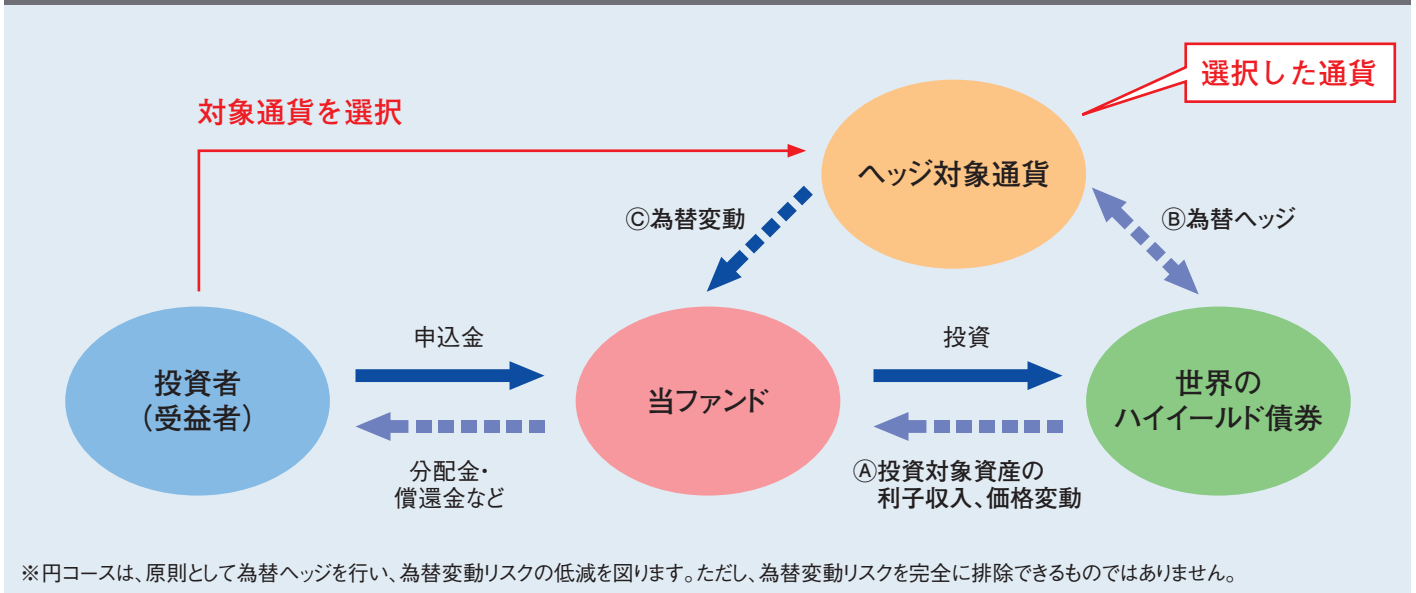
(注) 普通分配金に対する課税については、後掲「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

1.ファンドの目的・特色

通貨選択型投資信託の収益／損失に関するご説明

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替ヘッジの対象となる円以外の通貨も選択することができるように設計された投資信託です。

DIAMグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズのイメージ図



※円コースは、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

- DIAMグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズの収益源としては、以下の3つの要素があげられます。

①投資対象資産による収益(上図①部分)

- 世界のハイイールド債券が値上がりした場合や利子が支払われた場合は、基準価額の上昇要因となります。
- 逆に、世界のハイイールド債券が値下がりした場合には、基準価額の下落要因となります。

②為替ヘッジプレミアムによる収益(上図②部分)

- 「選択した通貨」の短期金利が、「世界のハイイールド債券の通貨」(米ドル)の短期金利よりも高い場合は、その金利差による「為替ヘッジプレミアム」が期待できます。
 - 逆に、「選択した通貨」の短期金利のほうが低い場合には、「為替ヘッジコスト」が生じます。
- ※「選択した通貨」が新興国通貨の場合などは、金利差がそのまま反映されない場合があります。

③為替変動による収益(上図③部分)

- 上図②部分とは異なり、上図③部分については為替ヘッジを行っていないため、「選択した通貨」(円を除く。以下同じ)の円に対する為替変動の影響を受けることとなります。
- 「選択した通貨」の対円レートが上昇(円安)した場合は、為替差益を得ることができます。
- 逆に、「選択した通貨」の対円レートが下落(円高)した場合は、為替差損が発生します。

- これまで説明しました内容についてまとめますと、以下のようになります。

収益の源泉	=	世界のハイイールド債券の 利子収入、値上がり/値下がり	+	為替ヘッジプレミアム/ コスト	+	為替差益/為替差損
収益を得られるケース		金利の低下等 ↑ ハイイールド債券 価格の上昇		ヘッジ対象通貨の短期金利 > 米ドルの短期金利 ↑ ヘッジプレミアムの発生		円に対してヘッジ対象通貨高 (円安) ↑ 為替差益の発生
損失やコストが発生するケース		金利の上昇 ↓ ハイイールド債券 価格の下落 発行体の信用状況の悪化等		ヘッジ対象通貨の短期金利 < 米ドルの短期金利 ↓ ヘッジコストの発生		円に対してヘッジ対象通貨安 (円高) ↓ 為替差損の発生

※円コースは、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

1.ファンドの目的・特色

ハイイールド債券とは

- 一般的に、格付会社によりBB(Ba)格相当以下の格付を付与された相対的に格付の低い債券をさし、投資不適格債券と位置づけられます。
- ハイイールド債券はそれより格付の高い債券(投資適格債券)と比べ、一般的に信用力が低いことから、その分金利が上乗せされます(上乗せ金利=信用スプレッド)。
- 一般的に、金利が上昇すると債券価格は下落しますが、低格付のハイイールド債券は金利が上昇する景気回復時において、発行体の企業業績が上向き、財務内容の改善が期待される場合などは価格が上昇することもあります。

※ハイイールド債券は、投資適格債券と比較して金利リスク、信用リスク、流動性リスク等が大きい傾向があり、大きく債券価格が下落することがあります。

【格付と信用力・利回りのイメージ】

低 ↑ 高	利回り ↓ ↑	投資適格 債券	S&P社	ムーディーズ社
			AAA	Aaa
高 ↓ 低	信用力 ↑ ↓	ハイイールド 債券	AA	Aa
			A	A
			BBB	Baa
			BB	Ba
			B	B
			CCC	Caa
			CC	Ca
			C	C
			D	

※上記はハイイールド債券についてご説明するための簡易的な説明およびイメージであり、ハイイールド債券や格付などについてすべてを示したものではありません。

【ハイイールド債券の主な価格変動要因】

↑ 価格上昇	● 金利低下	↓ 価格下落
	● 企業業績の向上	
	● 財務内容の改善	
	● 発行体格付の引き上げ	
	● 金利上昇	
	● 企業業績の低下	
	● 財務内容の悪化	
	● 発行体格付の引き下げ	

※上記はハイイールド債券の主な価格変動要因の一例を示したものであり、すべての価格変動要因を表すものではありません。

信用スプレッドとは

- 一般的に、国債などの安全資産と社債の利回り格差を「信用スプレッド」とよびます。
- ➡ 一般的に、信用力の高い企業(デフォルト*する可能性の低い企業)ほど、信用スプレッドは小さくなります。景気の回復・拡大局面では、企業の信用力が高まるため、信用スプレッドは縮小します。

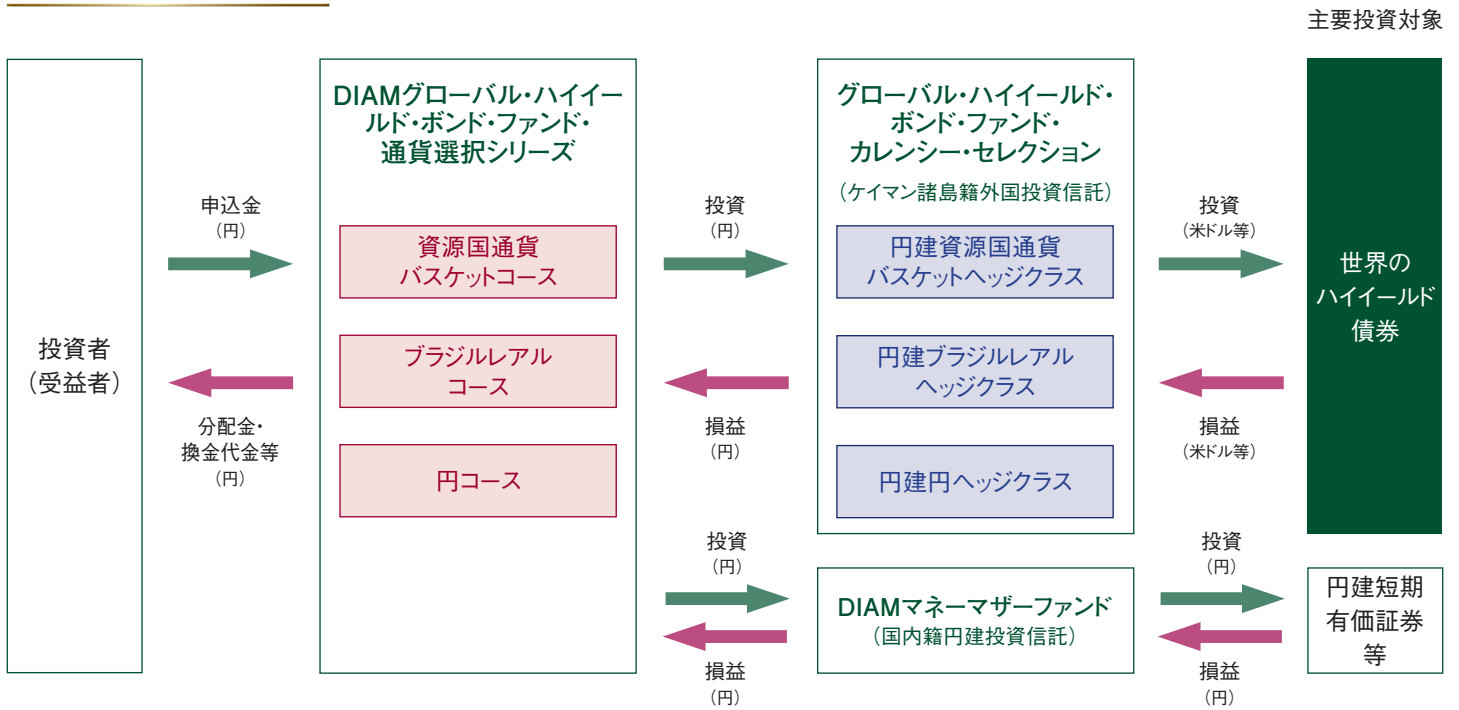
*デフォルトとは

破綻などにより債券の元金金が支払えない(債務不履行)状態をいいます。また、デフォルトが起こる確率をデフォルト率といいます。一般的に、景気の回復・拡大局面では、企業の財務状況が上向くため、デフォルト率は低くなります。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

1.ファンドの目的・特色

ファンドの仕組み



※各通貨コースは、「グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション」の他に、「DIAMマネーマネージャーファンド」にも投資します。
なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。

主な投資制限

◆各ファンド

- ①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- ②外貨建資産への直接投資は行いません。
- ③デリバティブの直接利用は行いません。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

1.ファンドの目的・特色

各ファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

ファンド名	<ul style="list-style-type: none"> ● DIAM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建資源国通貨バスケットヘッジクラス ● DIAM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建ブラジルリアルヘッジクラス ● DIAM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクション 円建円ヘッジクラス
形態	ケイマン諸島籍外国投資信託
主要投資対象	世界のハイイールド債券を主要投資対象とします。
投資態度	<ol style="list-style-type: none"> ① 主として世界のハイイールド債券(*)へ投資を行い、高水準のインカムゲインの確保と、信託財産の成長をめざして運用を行います。 (*)ハイイールド債券とは、S&P、ムーディーズ、フィッチ(以下個別または総称して「格付会社」といいます。)のいずれかによって、BB格相当以下に格付されている債券をさします。 ② ハイイールド債券の運用は、ジャナス・キャピタル・マネジメント・エルエルシーが行います。 ③ 原則として、ハイイールド債券への投資は純資産総額の90%以上とします。 ④ CCC格相当(**)以下に格付されている債券への投資割合は、純資産総額の30%以内とします。 (**)格付会社の格付が異なる場合は、最も高い格付を採用します。 ⑤ 無格付債券(格付会社の格付が付されていないもの)への投資割合は、原則として純資産総額の10%以内とします。 ⑥ 新興国の発行体が発行する有価証券(社債に限ります。)への投資割合は、純資産総額の15%以内とします。 ⑦ 転換社債への投資割合は、純資産総額の10%以内とします。 ⑧ 原則として、株式への投資は行いません。ただし、コーポレートアクション等により取得した場合、可能な限り速やかに売却することとします。 ⑨ 米ドル建以外の通貨建資産に投資を行った場合には、原則として対米ドルでの為替ヘッジを行います。 ⑩ 各クラスは、原則として以下の為替予約取引を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ● 円建資源国通貨バスケットヘッジクラス：米ドル売り資源国通貨バスケット(ブラジルリアル、豪ドル、南アフリカランド)買い ● 円建ブラジルリアルヘッジクラス：米ドル売りブラジルリアル買い ● 円建円ヘッジクラス：米ドル売り円買い ⑪ ファンドの資金動向、市況動向等に急激な変化が生じた場合、ならびに純資産総額が運用に支障をきたす水準となった場合等、やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用が出来ない場合があります。 (注)上記における純資産総額とは、為替管理会社が行う為替ヘッジ取引前のポートフォリオの純資産総額をさします。
主な投資制限	<ol style="list-style-type: none"> ① 同一発行体の発行する有価証券への投資割合は、原則としてファンドの純資産総額の5%以内とします。 ② 有価証券の空売りは行わないものとします。 ③ 流動性に欠ける資産への投資は、日本証券業協会の外国証券取引に関する規則(その後の改正または改訂を含みます。)により要求される価格の透明性を確保する適切な措置が講じられない限り、純資産総額の15%を超えないものとします。 ④ 為替ヘッジ取引以外のデリバティブは使用しません。 ⑤ 純資産総額の10%を超える借入れは行いません。(ただし、合併等により一時的に10%を超える場合を除きます。) ⑥ 投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。)への投資割合は、純資産総額の5%以内とします。 ⑦ 金融商品取引法第2条1項に定める「有価証券」の定義に該当しない資産への投資割合は、純資産総額の50%を超えないこととします。
関係法人	投資顧問会社：DIAMアセットマネジメント株式会社 副投資顧問会社：ジャナス・キャピタル・マネジメント・エルエルシー 為替管理会社：DIAM International Ltd 受託銀行：CIBCバンク・アンド・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッド 管理会社：クイーンズゲート・トラスト・カンパニー・リミテッド 管理事務代行会社：米国みずほ信託銀行 保管銀行：米国みずほ信託銀行
管理報酬等	申込手数料：ありません。 信託報酬：純資産総額の年率0.585%程度 (注)ただし、当該外国投資信託の信託報酬には、年間最低報酬額が定められている場合があり、純資産総額等によっては年率換算で上記の信託報酬率を上回る場合があります。 その他費用：信託財産に関する租税、組入る有価証券の売買時の売買手数料、信託事務の処理に要する費用、信託財産の監査に要する費用、法律関係の費用、外貨建資産の保管などに要する費用、借入金の利息および立替金の利息などを負担する場合があります。また、ファンドの設立に係る費用はファンドが負担します。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

1.ファンドの目的・特色

ファンド名	DIAMマネーマザーファンド
主要投資対象	国内発行体の公社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券ならびにCD、CP、コールローン等の国内短期金融資産
投資態度	① 国内の国債、政府保証債、政府機関債、地方債等のほか、取得時において主要格付機関(*)の長期発行体格付(複数の格付機関が付与している場合は高い方の格付)がAA-格相当以上の社債、転換社債、ユーロ円債、資産担保証券、さらに、国内格付機関の短期格付がa-1格相当以上のCD、CPを主要投資対象とします。 (*)主要格付機関とは、R&I、JCR、ムーディーズ、S&Pとします。 ② 国債および政府保証債を除き、原則として、ファンドの元本総額に対する1発行体当たりの有価証券の額面総額の割合は5%以内とします。 ③ ポートフォリオ全体の修正デフレーションは1年未満を基本として運用します。
運用会社(委託会社)	DIAMアセットマネジメント株式会社

○マザーファンドの主な投資制限については、請求目論見書または約款に記載しております。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

2.投資リスク

各ファンドの基準価額は、ファンドに組入れられる有価証券の値動きのほか、為替変動等による影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
また、投資信託は預貯金と異なります。

基準価額の変動要因 ※基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

金利リスク

一般的に金利が上昇すると債券の価格は下落します。ファンドは、実質的に債券に投資をしますので、金利変動により基準価額が上下します。各通貨コースが実質的に投資するハイイールド債券は、こうした金利変動の影響をより大きく受ける可能性があります。

為替リスク

■各通貨コース(円コースを除く)

各通貨コースの主要投資対象である外国投資信託では原則として、実質的な投資資産の発行通貨(米ドル)を売り予約し、各通貨コースごとの通貨(以下、「ヘッジ対象通貨」といいます。)を買い予約する為替取引を行います。しかし、米ドルの為替変動の影響を完全に排除できるものではありません。加えてヘッジ対象通貨の対円での為替変動の影響を大きく受けます。この場合、ヘッジ対象通貨に対して円高になった場合には基準価額が下がる要因となります。また、いずれの通貨コースにおいてもヘッジ対象通貨の金利が米ドルの金利より低い場合、その金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。

2.投資リスク

為替リスク(続き)

■円コース

円コースの主要投資対象である外国投資信託では原則として、対円での為替ヘッジを行い為替リスクの低減を図りますが、為替リスクを完全に排除できるものではなく、米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。また、円の金利が米ドルの金利よりも低い場合、その金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。

※資源国通貨バスケットコース(うちブラジルリアルのみ)、ブラジルリアルコースについては、為替ヘッジにあたり為替予約取引と類似する直物為替先渡取引(NDF)を利用します(2011年11月現在)。NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待、当該国の資本規制や税制等により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。この結果、ファンドの投資成果は、実際の為替市場や金利市場から想定されるものと大きく乖離する場合があります。

※外国為替市場の混乱等により為替予約取引やNDF取引が行えなくなった場合、ヘッジ対象通貨の為替への投資ができなくなる等ファンドの投資方針に沿った運用ができなくなる場合があります。特にNDF取引は為替予約取引に比べ当該国の資本規制や税制等の影響により流動性が乏しくなることがあることから、そのリスクが高くなります。

※米ドル建以外の通貨建資産に投資を行った場合には、原則として対米ドルでの為替ヘッジを行います。為替リスクを完全に排除できるものではなく、米ドル以外の通貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、当該米ドル建以外の通貨と米ドルの金利差によるヘッジプレミアム/ヘッジコストが発生します。

※NDF取引については、後掲「追加的記載事項」をご参照ください。

信用リスク

実質的に投資する債券や短期金融商品等の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、またこうした状況に陥ると予想される場合等には基準価額が下がる要因となります。各通貨コースが実質的に投資するハイイールド債券は、格付の高い債券に比べてこうしたリスクがより高いものになると想定されます。

流動性リスク

ファンドは、実質的に市場規模が小さい債券等に投資する場合があります。そのような市場では、資産規模や取引量が少ないため売却時に市場実勢から期待される価格で売却できなかつたり、売買取引が困難となることから、価格の値動きが大きくなることもあり、基準価額に影響をおよぼす可能性があります。

カントリーリスク

実質的な投資対象国・地域における政治・経済情勢の変化等によっては、運用上の制約を受ける可能性があり、基準価額が下がる要因となります。

分配金に関する留意点

- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことで、受益者毎に異なります。
- 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

その他の留意点

- 各ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 販売会社によってはスイッチングのお取扱いをしない場合がありますのでご注意ください。スイッチングのお取扱い等、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

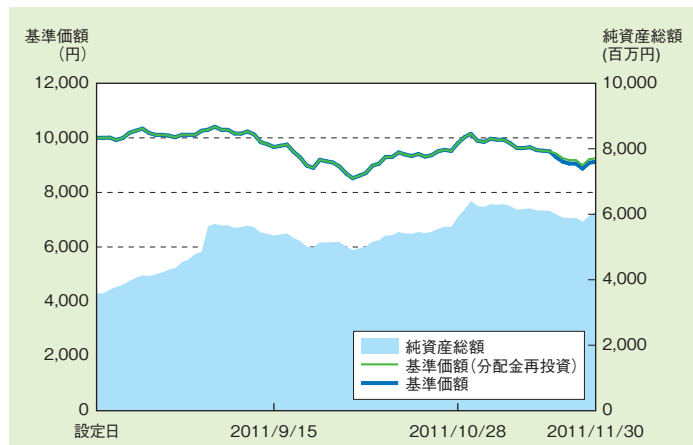
リスクの管理体制

委託会社では、運用パフォーマンス評価を、運用部門から独立したリスク管理グループが月次で対象ファンドについて分析を行い、結果を「経営会議」に報告します。また、「経営会議」において運用パフォーマンス評価方法の協議も行い、適宜見直しを行います。運用リスク管理は、リスク管理グループがリスクを把握、管理し、運用部門への是正指示を行うなど、適切な管理を行います。また運用リスク管理の結果については月次で「リスク管理委員会」に報告致します。

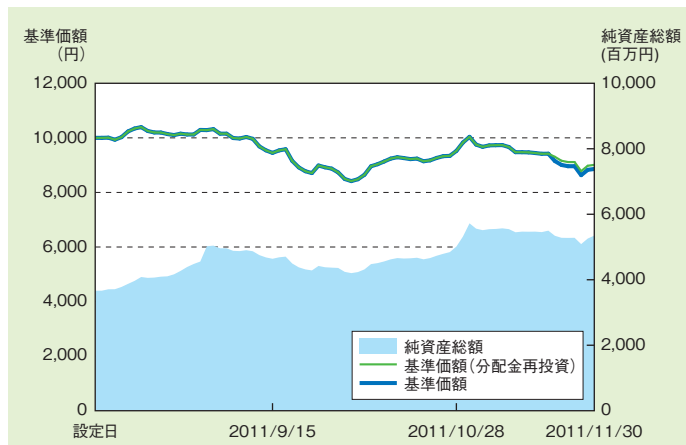
基準価額・純資産の推移

設定日(2011年8月9日)～2011年11月30日

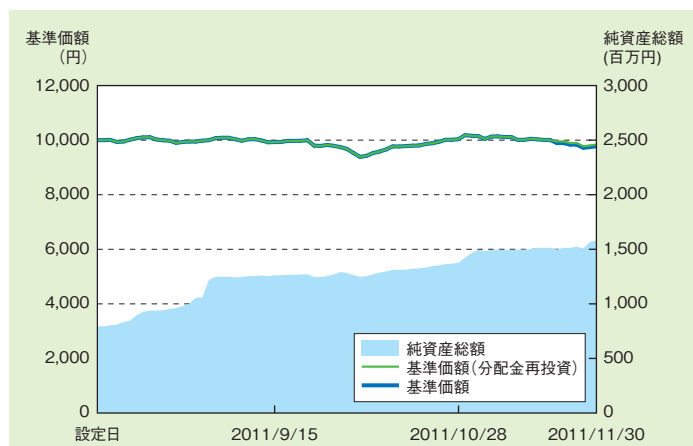
<資源国通貨バスケットコース>



<ブラジルリアルコース>



<円コース>



※ 基準価額(分配金再投資)は、設定当初の投資元本10,000円に設定来の税引前分配金を再投資したものと計算しておりますので、実際の基準価額とは異なります。(設定日:2011年8月9日)
 ※ 基準価額は信託報酬控除後です。

分配の推移(税引前)

(注)分配金は1万口当たりです。

DIAMグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ

	<資源国通貨バスケットコース>	<ブラジルリアルコース>	<円コース>
第1期(2011.09.20)	0円	0円	0円
第2期(2011.10.19)	0円	0円	0円
第3期(2011.11.21)	130円	155円	60円
直近1年間累計	130円	155円	60円
設定来累計	130円	155円	60円

○掲載データ等はいくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

○委託会社ホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

主要な資産の状況

DIAMグローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ

(注)投資比率(%)は、純資産総額に対する当該資産の時価比率です。

<資源国通貨バスケットコース>

組入銘柄一覧

順位	銘柄名	種類	国名	投資比率(%)
1	DIAM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクトション 円建資源国通貨バスケットヘッジクラス	投資信託受益証券	ケイマン諸島	98.08
2	DIAMマネーマザーファンド	親投資信託受益証券	日本	0.07

<ブラジルリアルコース>

組入銘柄一覧

順位	銘柄名	種類	国名	投資比率(%)
1	DIAM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクトション 円建ブラジルリアルヘッジクラス	投資信託受益証券	ケイマン諸島	98.17
2	DIAMマネーマザーファンド	親投資信託受益証券	日本	0.09

<円コース>

組入銘柄一覧

順位	銘柄名	種類	国名	投資比率(%)
1	DIAM ケイマン・トラスト・グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクトション 円建円ヘッジクラス	投資信託受益証券	ケイマン諸島	97.94
2	DIAMマネーマザーファンド	親投資信託受益証券	日本	0.06

DIAMマネーマザーファンド

(注)投資比率(%)は、当該マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率です。

ポートフォリオの状況

資産の種類	国名	投資比率(%)
国債証券	日本	38.61
地方債証券	日本	9.15
特殊債券	日本	15.99
社債券	日本	31.31
現金・預金・その他の資産 (負債控除後)		4.95
合計 (純資産総額)		100.00

組入上位10銘柄

順位	銘柄名	種類	国名	利率(%)	償還期限	投資比率(%)
1	226回 国庫短期証券	国債証券	日本	-	2012/1/12	12.87
2	238回 国庫短期証券	国債証券	日本	-	2012/2/27	12.87
3	233回 国庫短期証券	国債証券	日本	-	2012/2/6	8.58
4	314回 政保道路債	特殊債券	日本	1.00	2012/12/20	6.06
5	814回 政保公営企業債券	特殊債券	日本	1.40	2012/4/26	5.61
6	19年度 兵庫県市町共同公募債	地方債証券	日本	1.30	2012/5/9	4.86
7	18回 NTTドコモ社債	社債券	日本	1.00	2013/3/27	4.33
8	817回 政保公営企業債券	特殊債券	日本	1.30	2012/7/25	4.32
9	356回 中国電力社債	社債券	日本	1.20	2012/9/25	4.32
10	6回 かながわ県民債(7年)	地方債証券	日本	1.04	2011/12/27	4.29

グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・カレンシー・セレクトションの組入上位10銘柄

順位	銘柄名	発行国	クーポン(%)	償還日	比率(%)
1	ADS TACTICAL INC	米国	11.000	2018/4/1	2.07
2	AMERISTAR CASINOS INC	米国	7.500	2021/4/15	1.88
3	CAESARS ENTERTAINMENT OP	米国	10.000	2018/12/15	1.77
4	ARDAGH PACKAGING FINANCE	アイルランド	9.250	2020/10/15	1.72
5	CAMPOFRIO FOOD SA	スペイン	8.250	2016/10/31	1.53
6	MGM RESORTS INTL	米国	7.500	2016/6/1	1.49
7	LYONDELLBASELL IND NV	オランダ	6.000	2021/11/15	1.49
8	JAGUAR LAND ROVER PLC	英国	8.125	2018/5/15	1.41
9	CROSSTEX ENERGY LP/CROSS	米国	8.875	2018/2/15	1.39
10	ZIGGO BOND CO	オランダ	8.000	2018/5/15	1.39

*ジャナス・キャピタル・マネジメント・エルエルシーの現地月末データを基に作成しています。

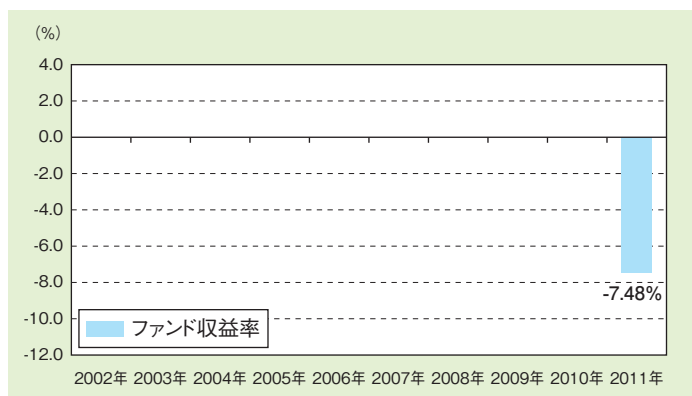
*比率は組入債券評価額に対する割合です。

○掲載データ等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

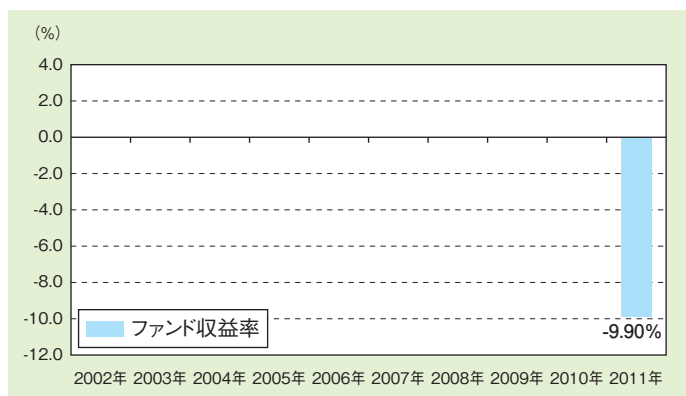
○委託会社ホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

年間収益率の推移

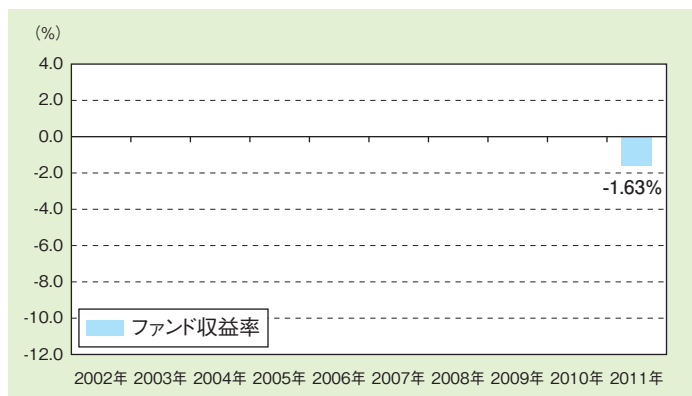
<資源国通貨バスケットコース>



<ブラジルリアルコース>



<円コース>



※ファンド収益率は、税引前の分配金を再投資したものとして算出しております。
 ※ファンド収益率は、暦年ベースで表示しています。但し、2011年は設定日から基準日までの収益率を表示しています。
 ※各ファンドともベンチマークはありません。

○掲載データ等はいくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

○委託会社ホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

4. 手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	各販売会社が定める単位(当初元本:1口=1円)
購入価額	当初申込期間:1口当たり1円 継続申込期間:お申込日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	お申込みをされた販売会社が定める所定の日までに購入代金を販売会社に支払うものとします。
換金単位	各販売会社が定める単位
換金価額	換金のお申込日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金のお申込日より起算して7営業日目から支払います。
申込締切時間	当初申込期間:販売会社の営業時間中とします。 継続申込期間:原則として販売会社の毎営業日の午後3時までとします。
購入の申込期間	当初申込期間:2011年7月25日~2011年8月8日 継続申込期間:2011年8月9日~2012年8月21日 ※継続申込期間中は購入またはスイッチングのお申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行の休業日またはロンドンの銀行の休業日(以下「海外休業日」といいます。)のいずれかに該当する場合には、購入またはスイッチングのお申込みの受付を行いません。 ※上記期間終了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。 海外休業日には、換金のお申込みの受付を行いません。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金・スイッチングのお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	2021年5月19日までです。(設定日:2011年8月9日)
繰上償還	主要投資対象とする外国投資信託が存続しないこととなった場合は、信託契約を解約し、信託を終了させます。 次のいずれかに該当する場合等には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了する場合があります。 ①受益者のために有利であると認める場合。 ②各ファンドにつき受益権口数が30億口を下回るようになった場合。 ③やむを得ない事情が発生した場合。
決算日	原則として毎月19日(休業日の場合は翌営業日) ※第1期の決算日は、2011年9月20日とします。
収益分配	年12回、毎決算日に、収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※「分配金受取コース」の場合、決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。 ※「分配金再投資コース」の場合、税引後、無手数料で自動的に全額が再投資されます。
信託金の限度額	各ファンドにおいて5,000億円とします。
公 告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年5月、11月のファンドの決算時および償還時に運用報告書を作成し、あらかじめ届出を受けた住所に販売会社よりお届けいたします。 ※委託会社のホームページにおいても開示しております。(URL http://www.diam.co.jp/)
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※益金不算入制度、配当控除の適用はありません。
基準価額の照会方法	基準価額は、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせいただくか、計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊の「オープン基準価格」の欄をご参照ください。 (委託会社の略称:DIAM、ファンドの略称 資源国通貨バスケットコース:グロハイ債資 ブラジルリアルコース:グロハイ債ブ 円コース:グロハイ債円)
スイッチング	「DIAM グローバル・ハイイールド・ボンド・ファンド・通貨選択シリーズ」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。 スイッチングの際には、ご換金時と同様の費用・税金および各販売会社が定める購入時手数料・税金がかかります。 ※販売会社によってはスイッチングのお取扱いをしない場合がありますのでご留意下さい。スイッチングのお取扱い等、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

4. 手続・手数料等

ファンドの費用・税金

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用																		
購入時手数料	各ファンドにおいて購入価額に、3.675% (税抜3.50%) を上限として各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額をご購入時にご負担いただきます。																	
信託財産留保額	ありません。																	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用																		
運用管理費用 (信託報酬)	各ファンド																	
	実質的な負担	ファンドの日々の純資産総額に対して年1.62975% (税抜1.58%) (概算) の率を乗じて得た額とします。																
	ファンドの運用管理費用 (信託報酬)	<p>ファンドの日々の純資産総額に対して年1.04475% (税抜0.995%) の率を乗じて得た額とします。また、運用管理費用 (信託報酬) の配分は下記の通りとします。ファンドの運用管理費用 (信託報酬) は、日々の基準価額に反映され、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>項目</th> <th colspan="2">費用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">毎日</td> <td rowspan="3">信託報酬</td> <td>総額</td> <td>信託財産の純資産総額に対して年率1.04475% (税抜0.995%)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">配分</td> <td>委託会社</td> <td>年率0.26775% (税抜0.255%)</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年率0.7455% (税抜0.710%)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>受託会社</td> <td>年率0.0315% (税抜0.030%)</td> </tr> </tbody> </table>	時期	項目	費用		毎日	信託報酬	総額	信託財産の純資産総額に対して年率1.04475% (税抜0.995%)	配分	委託会社	年率0.26775% (税抜0.255%)	販売会社	年率0.7455% (税抜0.710%)		受託会社	年率0.0315% (税抜0.030%)
	時期	項目	費用															
	毎日	信託報酬	総額	信託財産の純資産総額に対して年率1.04475% (税抜0.995%)														
配分			委託会社	年率0.26775% (税抜0.255%)														
			販売会社	年率0.7455% (税抜0.710%)														
	受託会社	年率0.0315% (税抜0.030%)																
投資対象とする投資信託証券の運用管理費用 (信託報酬)	投資先外国投資信託証券の純資産総額に対して年率0.585%*程度 ※ただし、外国投資信託の信託報酬には、年間最低報酬額が定められている場合があり、純資産総額等によっては年率換算で上記の信託報酬率を上回る場合があります。																	
	上記は、ファンドが投資対象とする外国投資信託を高位に組み入れた状態を想定しています。																	
その他費用・手数料	組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、監査費用、外国での資産の保管等に要する諸費用等がお客様の保有期間中、その都度かかります。 ※これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。																	

※当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

税金

時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して10%
換金 (解約) 時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金 (解約) 時および償還時の差益 (譲渡益) に対して10%

※税金は表に記載の時期に適用されます。

※上記の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

※上記は、2011年11月末現在のものです。2013年1月1日から2013年12月31日までは10.147%の税率となります。また、2014年1月1日以降は20.315%の税率となる予定です。

なお、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引について

為替予約取引とNDF取引

為替ヘッジは、主に「為替予約取引」を用います。

しかし、一部の新興国通貨では…
(中国元、ブラジルレアル、インドルピー、インドネシアルピアなど)

「為替予約取引」ができません。

そこで

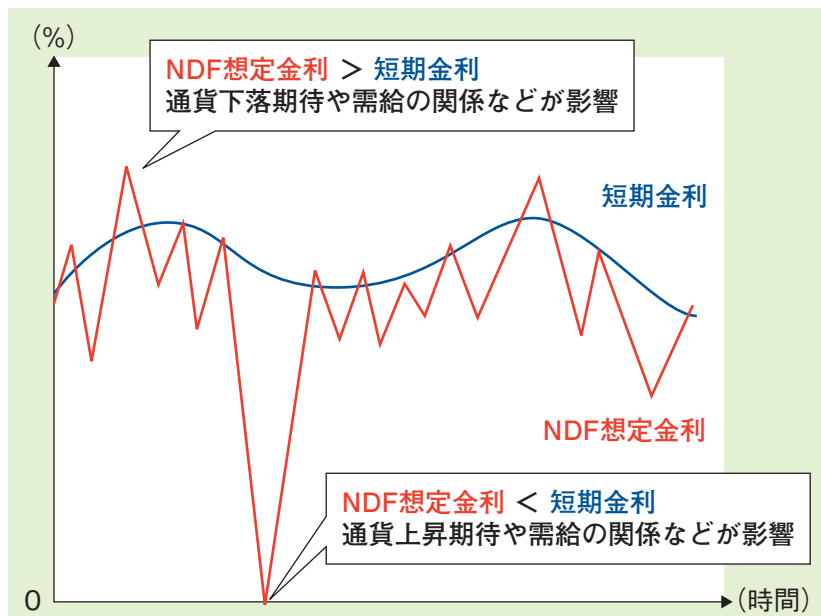
NDF取引を活用

理由: 為替市場が未成熟であったり、当局が国外での自国通貨の流通を制限しているなどの理由で、本国以外で多額の当該通貨の保有、調達、決済などが難しいためです。

NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引とは

- 直物為替先渡取引の一種です。主に金融機関との相対取引で、当該通貨の受渡しが発生せず、主に米ドルなど主要通貨で差金決済を行います。
- 通常の為替予約取引と比べ、取引参加者が少ないことや、当局による金融・資本市場における制約などから、金利裁定(割高や割安を是正する市場のメカニズム)が働きにくいだけでなく、取引参加者の為替見通しを反映した需給の影響をより強く受けることがあります。そのため、**NDFの取引価格から想定される金利(NDFインプライド金利)が、取引時点における当該通貨の短期金利水準から、大きく乖離**する場合があります。

NDF想定金利と短期金利が乖離する例(イメージ)



NDFの取引価格から想定される金利(NDFインプライド金利)は、通貨に対する需給や通貨の上昇期待が反映され、マイナスになる程低くなる場合もあります。その場合、為替ヘッジプレミアムの減少や為替ヘッジコストの発生により、ファンドのパフォーマンスに影響を与えることがあります。

※左記は、イメージであり、すべての事象があてはまるとは限りません。また、将来の水準を予測、または示唆するものではありません。

- 外国為替市場の混乱等によりNDFが利用できなくなった場合には、選択した通貨への投資ができなくなるなどファンドの運用方針に沿った運用ができなくなるリスクもあります。同様のことが通常の為替予約取引についてもいえますが、特にNDFは為替予約取引に比べて流動性が乏しくなることがあるため、そのリスクが高くなります。

※ 上記の要因以外でも、投資対象資産の通貨の短期金利が上昇した場合は、為替ヘッジプレミアムが減少したり、為替ヘッジコストが生じる可能性があります。

※ 上記は、NDF取引や為替市場に関する説明の一部であり、NDF取引および為替市場についてすべてを網羅したものではありません。

(出所:各種情報に基づきDIAM作成)